

パラグラフ・ライティングの方法

じんばまさみね
○神馬征峰（東京大学大学院医学系研究科）

【概要】

論文作成におけるポイントは何か？正確な情報を正確に記載する、そのことは確かに重要である。一方で、「明瞭に表現された誤謬は、曖昧な正しさより、はるかに貴重なのである」という見解もある(1)。明瞭に表現することがいかに重要であるか。これまで多くの論文を書き、査読し、改めてそのことを実感している。

明瞭な文章を書くにあたっての基本は、センテンスである。まずは、本学会で何度も強調してきたように、論旨をあいまいにする「が」の使用は極力控え、より明確な表現にすべきである。次に「考える」「思う」といった表現も極力避けるべきである。こういう表現は meta-discourse（自己解説）と称され、論理的文章に必要ではない(2)。その他、一つのセンテンスが長くなった際の主語・述語の不一致の解消など、センテンスを磨く努力は惜しむべきではない。

次に来るのが今回のテーマであるパラグラフ・ライティングである。パラグラフは一般に段落とも訳され、書き手によって、両者の関係のとらえ方は大きく異なっている。両者を同じととらえる人、別物ととらえる人、さまざまである。とはいうものの、英語圏等で用いられてきたパラグラフ・ライティングは、論文作成において欠かすことのできない技術である。これによって冒頭に述べた、明瞭な表現技術が格段に向上する。

今回の早朝セミナーではパラグラフ・ライティングの秘訣を紹介する。それと同時に論文のイントロダクションの展開をいかに進めるべきか、考察のパラグラフ構成をいかに進めるべ

きか。これらのことについても触れ、参加者の論文作成能力が向上するようなセミナーとしたい。

- (1) 岡部聡夫. 「後記」アンリ・ベルクソン『心と身体 物質と記憶力—精神と身体の関係について』. 駿河台出版社, 2016. P473.
- (2) 吉岡友治. シカゴスタイルに学ぶ論理的に考え、書く技術. 草思社, 2015. P37.

略歴

東京大学大学院医学系研究科 国際地域保健学教室教授. 浜松医大卒。飛騨高山赤十字病院を経て、国立公衆衛生院、ハーバード大学において7年間大気汚染研究に従事。WHO, JICA などを経た後。2002年より東京大学へ。2006年より教授となり現在に至る。(E-mail ; ohjimba@gmail.com)